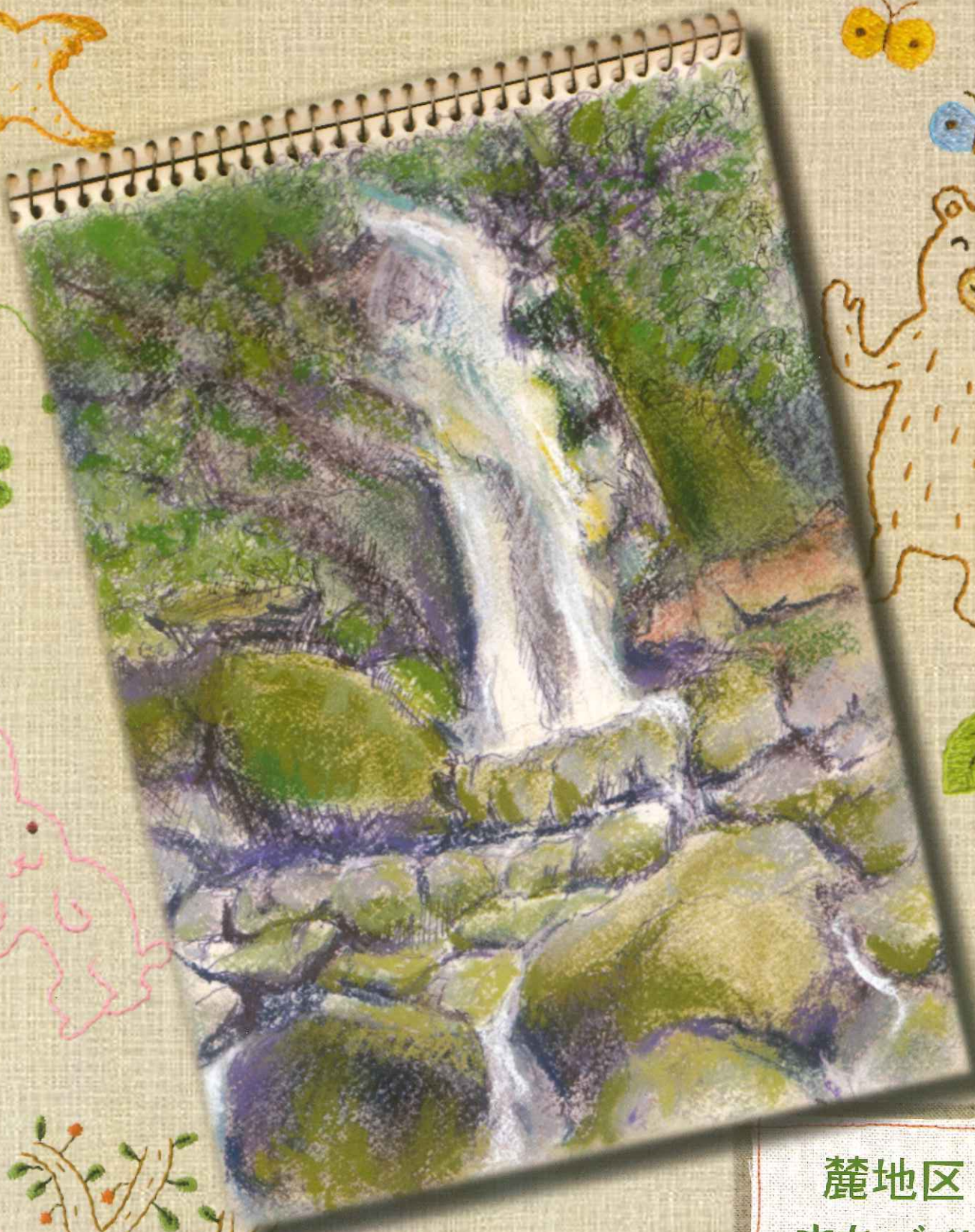
麓地区まちづくり推進計画



麓地区
まちづくり
推進協議会

目　　次

1．ご挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P 1

2．はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P 2

3．麓地区の実態　・・・・・・・・・・・・・・・・　P 3

⑴人口

⑵麓地区の行政区

⑶麓地区の歴史

⑷麓地区の祭り

⑸麓地区の観光地

⑹麓地区の交流イベント

⑺麓地区イメージキャラクター

藤木　沙帆さん
【作品に込めた思い】
麓をイメージした大木にメジロを描いて、麓に自然や鳥がずっといてほしいという願いを込めました。

4．アンケート結果・考察について　・・・・・・　P12

5．まちづくりの目的（麓地区の目指す姿）　・・・　P16

6．まちづくりの活動の柱　・・・・・・・・・・・　P18

7．まちづくりの事業　・・・・・・・・・・・・・　P20

挿絵について

麓地区のイメージキャラクターを募集したところ、16件の応募がありました。推進計画の作成にあたり、応募いただいた作品の一部を挿絵として掲載しています。

1.ご挨拶

「山川の恵ゆたけき、うるわしのふもとの里よ」と麓小学校の校歌にあるように、この「まち」はみどり豊かで自然あふれる「まち」で、そして新幹線が停車する新しい「まち」です。この「まち」に住む人々は、子どもを大事に育てていこうとする心があり、「まち」全体でつながっている、すばらしい「まち」でもあります。

しかし、世界情勢は不透明さを増し、これからの政治経済に一抹の不安さえ感じられるところです。そういう情勢の中、少子・高齢化はますます進み、特に高齢化のスピードは一段と加速されると予測されます。

このような中、自分の生き方、人と人との結びつき、地域との関わり方等について、もう一度考えてみる必要があるのではないでしょうか。

鳥栖市では、『おかげさま、おたがいさまの気持ちで、私たちの好きなまちは私たちでつくろう』を合言葉に市民協働による暮らしやすいまちづくりの推進を掲げています。

それを受けて、平成24年2月24日に区長会や各種団体を中心とした「麓地区まちづくり推進協議会」を設立し、麓地区におけるまちづくりの話し合いの場、実践の場として、地域の課題の解決を図ることとしています。

その中で、今後10年間のまちづくりの柱を、

1.交流、2.防犯・防災、3.人材

としています。この3本の柱は、これからの麓地区を支えるものであり、まちづくりを行う上で、常に念頭に置く必要があるものです。

また、まちづくりは身近なものです。まずご近所から始め、それが町区、地区へと活動が広がり、地区全体が活性化することになります。

このようなまちづくりは、みなさんのご協力、ご理解があってこそ実のあるものになります。麓の住民でよかったといえるような「まち」になることを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

麓地区まちづくり推進協議会
会長 横尾 義昭

2. はじめに

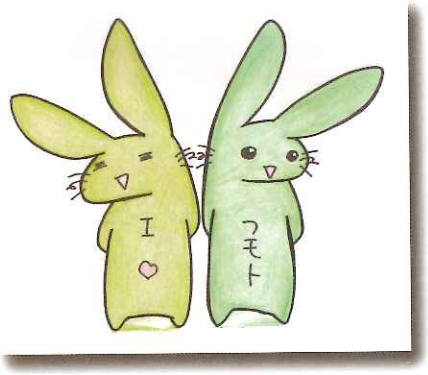
麓地区まちづくり推進協議会は、平成24年2月に設立しました。

麓地区のまちづくりは、協議会設立前より、麓公民館(現在の麓まちづくり推進センター)が中心となり、文化祭、盆踊り大会、麓ふれあい祭りなど行っています。

しかし、平成30年には麓地区でも4人に1人が高齢者となる推計があり、今までのようなまちづくりが行えなくなることが予想されます。4人に1人が高齢者という状況でも、住み慣れた麓地区で暮らせるためには、今まで以上に麓地区が一丸となったまちづくりを行う必要があります。そのためには、目指す麓地区の姿を地区のみんなで共有し、協議会はもとより、町区をはじめ協議会を構成する団体においても、この麓地区の目指す姿を達成するため、活動することが必要です。

これらのことから、このまちづくり推進計画では、麓地区のみんなで目指す麓地区の姿を明らかにします。

牛島 由貴さん
【作品に込めた思い】
麓の豊かな自然の象徴としてホタルを描きました。



渡部 小春さん
【作品に込めた思い】
麓は自然に恵まれ、野生の動物も、たくさんいるイメージです。自然の豊かさを緑の色で表現しました。麓に住む人々はもちろん、動物など生き物にも愛されている事を伝えたくてうさぎのキャラを考えました。

麓地区まちづくり推進協議会構成団体

麓地区区長会・麓地区民生委員児童委員協議会・麓地区社会福祉協議会・麓地区体育協会・麓地区交通対策協議会・麓地区青少年育成会・麓小学校・鳥栖西中学校・麓小学校PTA・鳥栖西中学校PTA・高齢部・文化部・体育部・交通部・女性部・子どもクラブ・鳥栖市消防団第4分団・文化教室代表・創年たまり場の会・四阿屋会

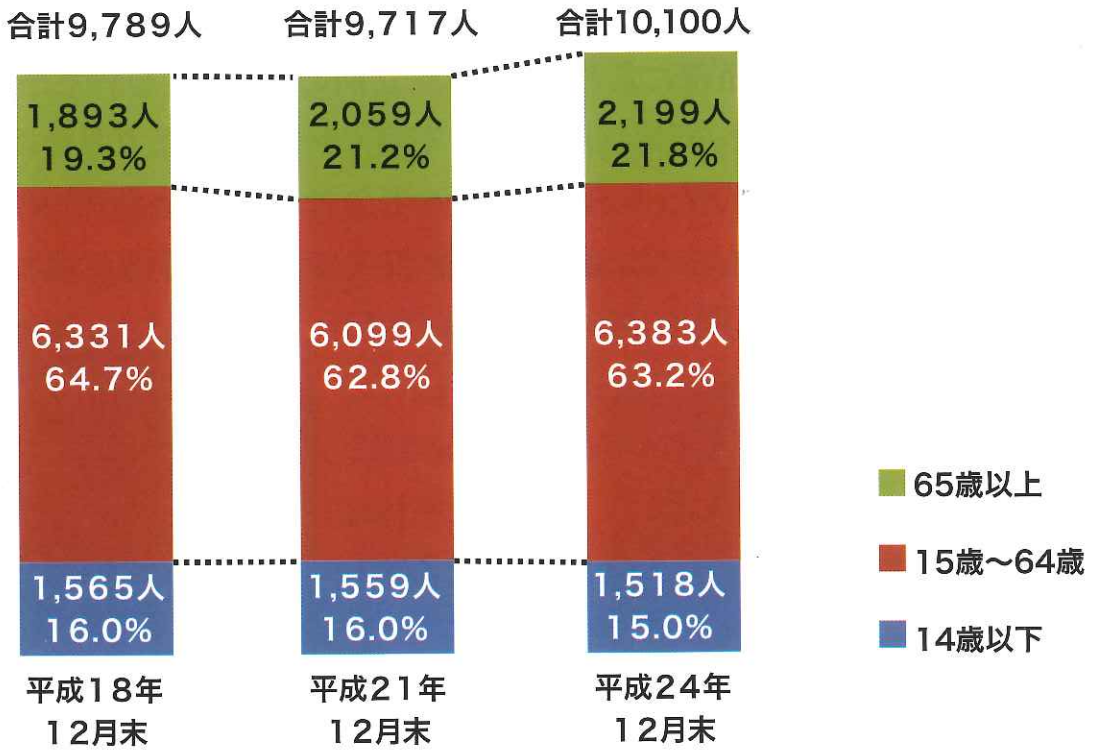
3．麓地区の実態

⑴人口

麓地区の人口は、平成２４年１２月末で10,１００人です。３年前から３８３人増加しています。

しかし、年齢別でみると、１４歳以下の年少人口は４１人の減、６５歳以上の老年人口は１４０人の増となっています。

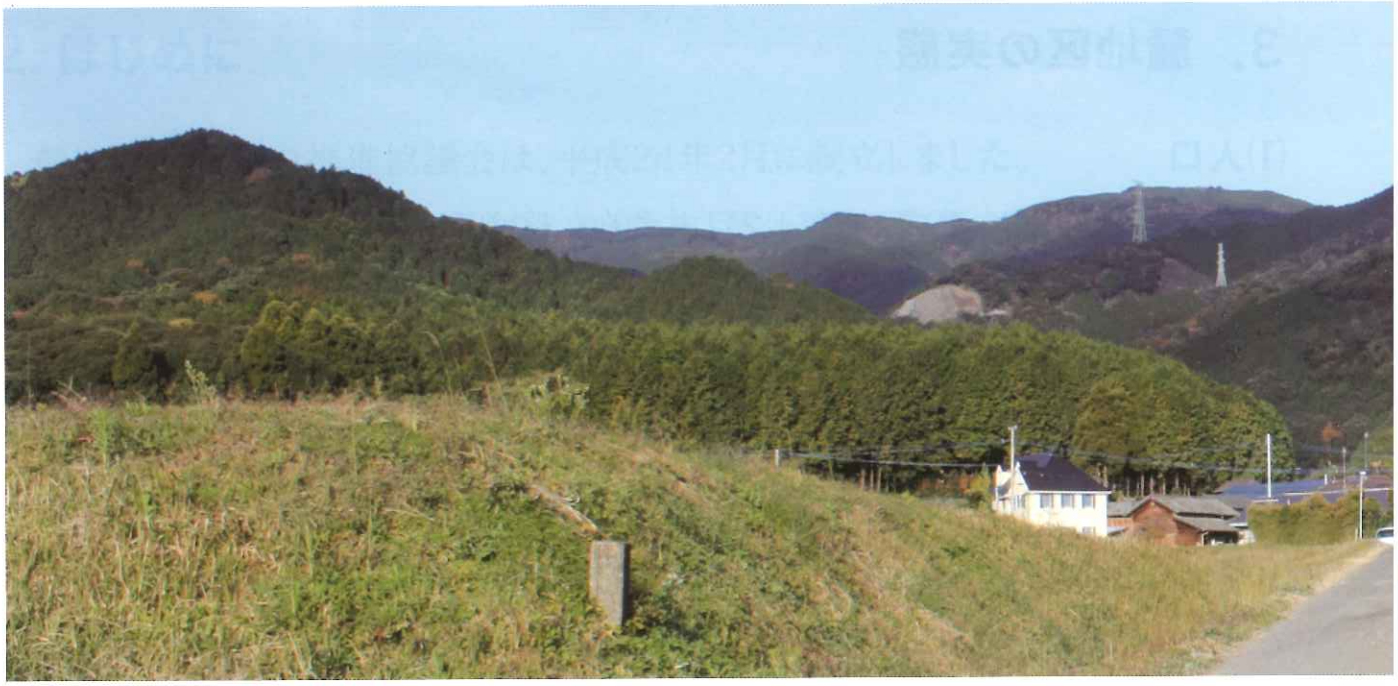
特に、６５歳以上の高齢化率は、平成２４年１２月末で２１.８％となっていて、６年前から２.５％の増となっています。また、６年後の平成３０年には２６.１％になるとの鳥栖市の推計があります。



⑵麓地区の行政区

麓地区には11の行政区があります。

蔵 上 町	養父町	牛 原 町	山浦町
桜ヶ丘町	山都町	原古賀町	原古賀住宅区
平 田 町	立石町	一本杉区	



⑶麓地区の歴史

麓地区は鳥栖市の西部にあたり、同市成立前の鳥栖町、旭村とともに養父郡の一部でした。藩政時代は、同地区を流れる安良（やすろ）川あたりを境として、養父郡の東半分は対馬藩田代領（基肄養父）、西半分は佐賀藩鍋島領（肥前）に分かれて治められました。今でも方言に肥前と基肄養父で違った言葉が残っています。

「麓」という地名は、明治２２（１８８９）年町村制実施の折に、九千部山、石谷山など山々の麓にあたるところから名付けられたものです。道路は、宿、蔵上、山浦、平田、立石と東西に走る旧鳥栖川久保線が主要道路でしたが、今では、山手に長崎自動車道、東に国道３４号、鳥栖筑紫野線があります。鉄道は、明治２４（１８９１）年に敷かれた長崎本線（肥前麓駅は昭和２２年敷設）が通っていますが、平成２３（２０１１）年3月に九州新幹線が開通し、原古賀町に新鳥栖駅が建設されました。

立石鉄道橋
（明治２４年から現在も使用）

牛原前田遺跡出土の
縄文土器

立石惣楽遺跡

麓地区は古くから人々が住み、原始古代の遺跡が数多く残っています。縄文遺跡では、山浦の西田遺跡、牛原前田遺跡、蔵上遺跡な

どがあります。古墳では、山浦古墳群、牛原原田遺跡、末期の群集墳に立石の惣楽遺跡があります。

養父郡の養父の地区名は、奈良時代の「肥前風土記」に出ています。古代の条里制（土地の区画）の跡も各地に残っています。山浦の「一の坪」「四の坪」、平田の「三十六」などの地名です。平安時代には土地公有の班田制が崩れ、有力貴族や大寺社の荘園（私有地）が発達しますが、宇佐八幡宮領の養父荘、村田荘などが知られています。

国史跡　勝尾城の空堀

戦国時代の筑紫氏が基肄・養父両郡を支配するようになったのは、15世紀末筑紫満門の頃で、その後広門の頃までは五代約90年間勝尾城（城山）を本拠地としました。勝尾城の麓の館を中心に、谷間に武家屋敷、町家を設け、その間に空堀を設けて遮断してあり、さらに、周囲の山には、鬼ヶ城、鷹取城、葛籠城、鏡城の城郭群があります。天正14（1586）年広門の頃、薩摩の島津氏との合戦で落城しました。戦国時代の大規模な山城の遺跡である勝尾城は、平成18（2006）年国史跡に指定されました。

国史跡　勝尾城の石垣

四阿屋（あずまや）神社の御田舞（おんだまい）（蔵上町）

明治の町村制実施の前は、麓地区は、宿、牛原、山浦、立石の四村に分れていましたが、その後合併して麓村となり、四村は大字となりました。明治２９（１８９６）年、三根、養父、基肄の三郡が三養基郡となり、昭和２９（１９５４）年、鳥栖町、田代町、基里村、旭村と合併して鳥栖市が誕生しました。当初は鳥栖市麓町と呼んでいましたが、昭和３２（１９５７）年町名変更により現在のような町区名になりました。その後、一本杉、山都、原古賀住宅、桜ヶ丘の町区ができました。

最後に、麓地区に残る文化財を紹介します。県の重要文化財の指定を受けているものは、四阿屋（あずまや）神社の御田舞（おんだまい）（蔵上町）、市の重要文化財の指定を受けているものは次のとおりです。

牛原香椎宮縁起絵（牛原町）

西法寺の四脚門（蔵上町）

野副板碑群（立石町）

←大楠の六地蔵
（原古賀町）

六地蔵→
（蔵上町）

←五重石塔
（立石町）

千手観音像→
（牛原町）

県重要無形民俗文化財　昭和３４年3月２０日指定

⑷麓地区の祭り

① 四阿屋（あずまや）神社の御田舞（おんだまい）（蔵上町）

豊作を祈る御田植祭（おんだうえさい）の一種で、田植えの諸作業を芸能化したものです。

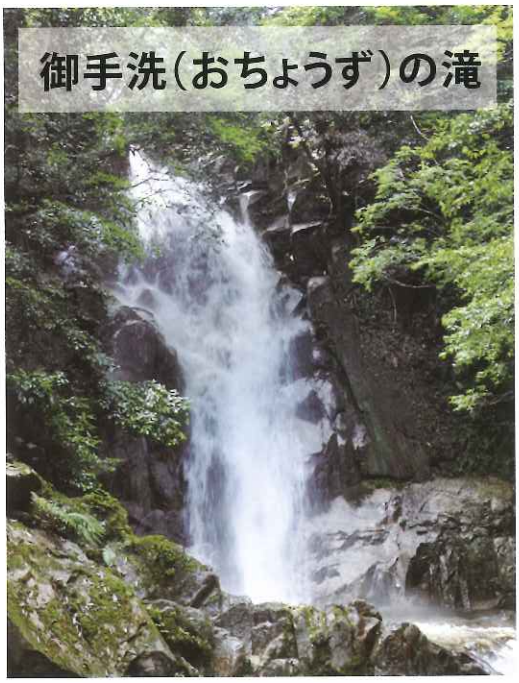
御田舞は3間四方の仮設舞台の上で、長（おさ）・座奉行・申立（いいたて）・種蒔・代踏（しろふみ）・田童（とうど）・田打・鬼・鼓・太鼓・先払い・手すきなど総勢３０人以上の男性が、「申立」「田打」「種蒔」「代踏」「鬼」「雨降り」の順序で演じます。古式ゆかしい田植えの舞として貴重なものといえます。

（県重要無形民俗文化財 昭和３４年3月２０日指定）

② 牛原の獅子舞（牛原町）

藤木町から伝承され、養父郡の惣社である四阿屋（あずまや）神社の神幸祭に奉納されていました。

神幸祭の廃絶後、昭和５１年に麓公民館の落成において復活しています。現在では、香椎神社での獅子舞の奉納と牛原町公民館からの行列、四阿屋神社での獅子舞の奉納が行われています。



⑸麓地区の観光地

①御手洗(おちょうず)の滝(立石町)

修験者がこの滝に立ち寄り手を洗って身を清めたことから、御手洗(おちょうず)の滝と名前がついています。

九千部山山麓に位置する高さ２２ｍ、幅６ｍの豪快な滝で、うっそうとした木々の間から落ちる水しぶきが涼をさそいます。

②四阿屋(あずまや)(牛原町)

河内川の四阿屋神社境内付近を「四阿屋(あずまや)」といい、その境内に流れる渓流はまさに天然のプールです。夏休み期間中は遊泳場になり、絶好の避暑地として人気があります。

③沼川河川プール(立石町)

御手洗の滝キャンプ場の駐車場から約５００ｍ下流にあるこのプールは敷地面積が約８００㎡、プール面積約３００㎡の沼川の自然の川の水を直接引いた河川プールです。

水深は３５ｃｍから８０ｃｍ程度となっており、幼児から小学生までが水遊びをするにはちょうどいい深さとなっています。夏休み期間中に開設しており、毎年、多くの家族連れが水遊びを楽しんでいます。

⑹麓地区の交流イベント

現在、麓地区で行われている校区単位での主な交流イベントは、次のようなものがあります。

①麓地区文化祭

毎年2月頃、2日間に渡り開催されます。平成２４年度の開催で３７回となり、地区の方に長く親しまれている行事です。文化祭当日は、歩け歩け運動も開催され、大変多くの方でにぎわいます。

②麓地区盆踊り大会

毎年８月初めに開催され、平成２４年度の開催で３３回となっています。毎年約４５０人の方が参加され、区長・文化部の方々が準備されたやぐらを囲んで、大きな輪になってみんなで踊ります。

③麓地区体育祭

麓小学校の運動場で各町区対抗により行います。競技の合間には、麓小学校の児童による面浮立などが披露されます。

④麓ふれあい祭り

麓小学校で開催され、平成２４年度で１５回目となっています。毎年百数十人の地域の方々が参加しています。こま廻し、お手玉などの昔遊び、餅つき、門松やしめ縄作りを通して、麓小学校の児童が地域の皆さんの知恵や温かさに触れることができる、楽しい交流の場となっています。

⑤麓ふれあい畑

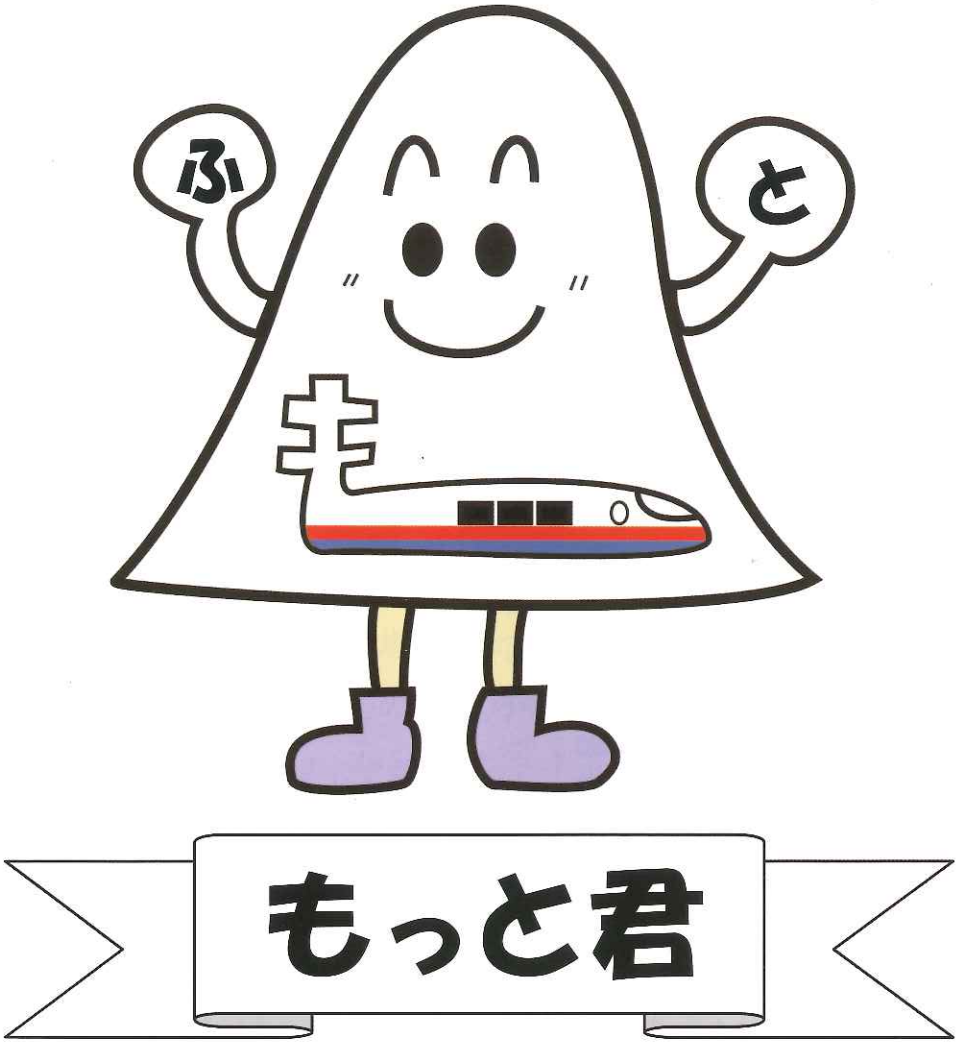
麓まちづくり推進センターの敷地に畑を整備し、麓小学校の児童と民生児童委員、老人クラブの方々が一緒になって、ジャガイモやさつまいも、玉ねぎなどを栽培しています。

収穫した野菜は、給食の材料にもなります。

松尾　春音さん
【作品に込めた思い】
麓という字から考えました。２本の木の下に鹿だから鹿のつのを木にしました。山登りのリュックもしょわせました。名前は「フモト・たのしか君」です。

⑺麓地区イメージキャラクター

麓地区のイメージキャラクターを募集したところ、16件の応募があり、麓地区まちづくり推進協議会の総会で横尾美智代さん（山浦町）の『もっと君』に決定しました。



【作品に込めた思い】

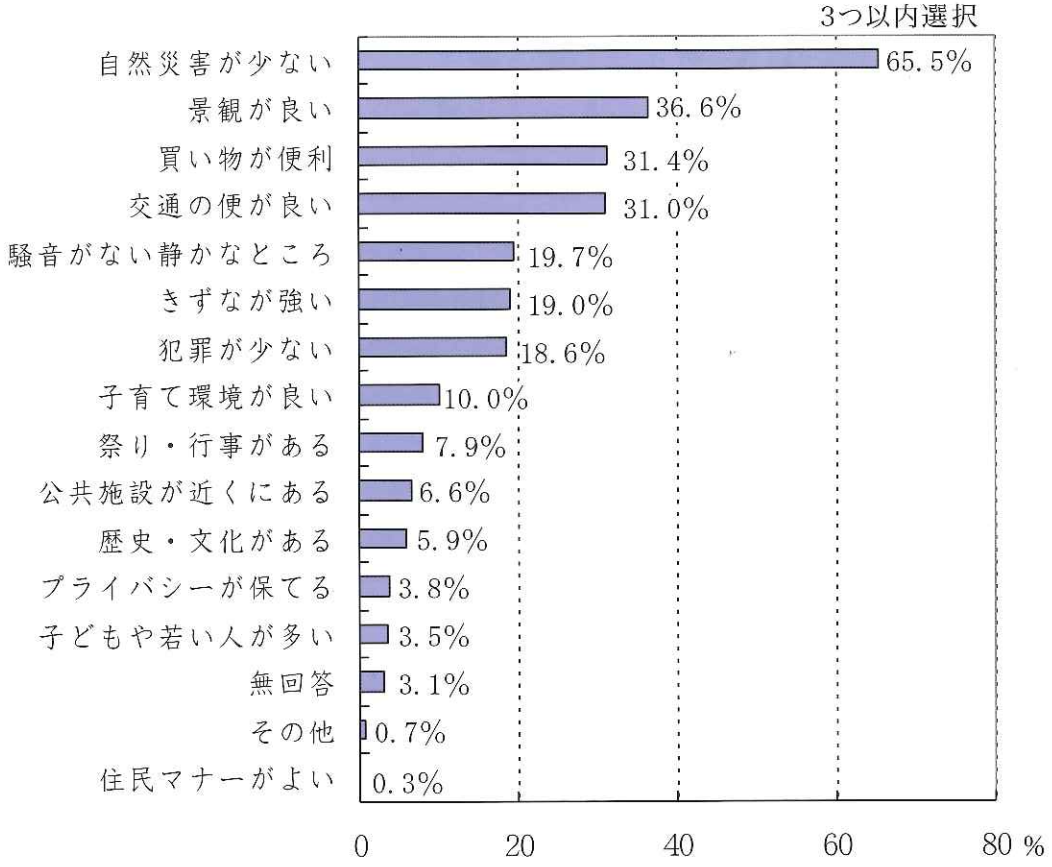
麓と言えば緑豊かな九千部とこれからますます都市として発展していく象徴で新幹線を。大きなこぶしをにぎり、もっと緑豊かな都市を目指してという意味を込めました。

4.アンケート結果・考察について

麓地区の現状を把握するために、『麓地区まちづくり住民アンケート』を実施しました。主なアンケート結果は次のとおりです。

調査時期：平成２４年7月～8月
調査対象：麓地区在住者
有効回答：２９０件（調査票配布３４０件、回収率85.3%）
性　　別：男１８３人（63.1%）女１０４人（35.9%）無回答３人（1.0%）

麓地区の長所

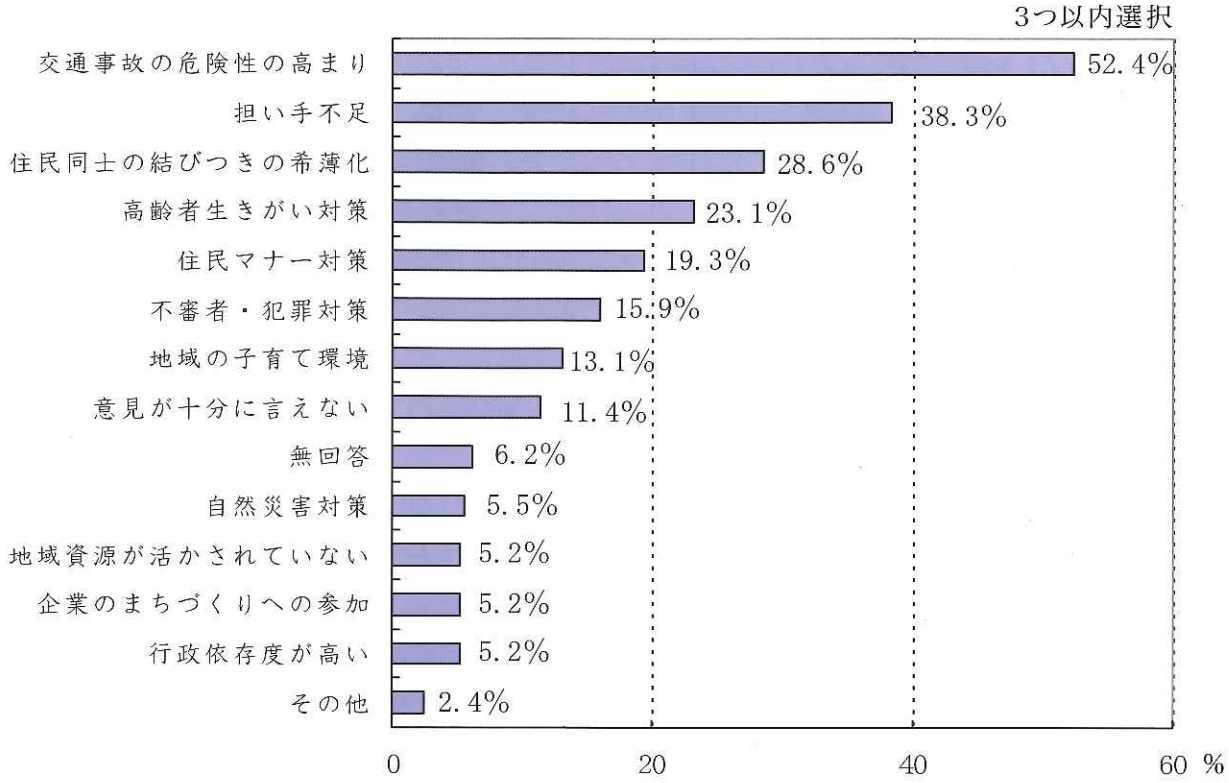


長所で一番多かった回答は、**『自然災害が少ない』で６５.５%の方が選択**されています。２番目に『景観が良い』、５番目に『騒音がない静かなところ』となっており、**麓地区が恵まれた自然環境にある**ことが分かります。

３番目が『買い物が便利』となっていますが、近年、地区内に商業施設が出店し、利便性が向上したためと考えられます。

４番目の『交通の便が良い』は、九州新幹線の新鳥栖駅の開業により、今後、さらに実感されると考えられます。

麓地区の主な課題



課題で一番多かった回答は、**『交通事故の危険性の高まり』で52.4%の方が選択**しています。具体的な場所については、県道31号（川久保線）の乗目交差点から佐賀方面に関しての意見が多く寄せられていました。

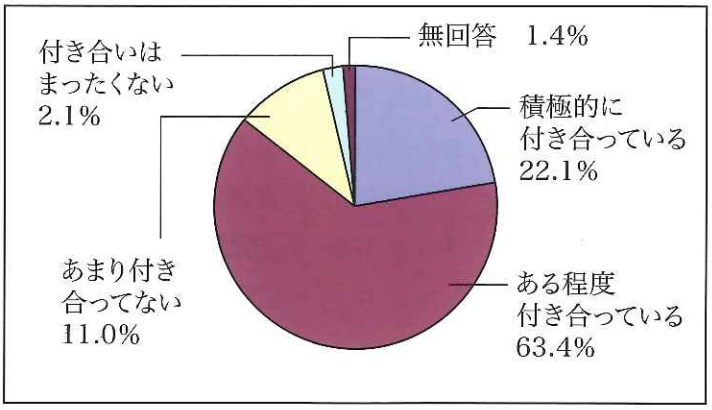
2番目の**『担い手不足』**は、今後ますます進む高齢化を考えると、担い手も今以上に不足することが考えられます。**まちづくりの協力者（人材）を増やす**ことが必要です。（住民参加のまちづくりに関するアンケート結果はP15参照）

3番目の**『住民同士の結びつきの希薄化』**は、東日本大震災以降、住民同士の結びつきが見直されているためと考えられます。**住民同士の交流する機会を見直し、結びつきを強める**必要があります。（人と人の結びつきに関するアンケート結果はP14参照）

岡﨑　有咲さん
【作品に込めた思い】
麓の豊かな自然の中に咲く花をモチーフにしています。小さな花も、森も、山も。多くの人に大切に、そして愛されるという願いを込めて描きました。

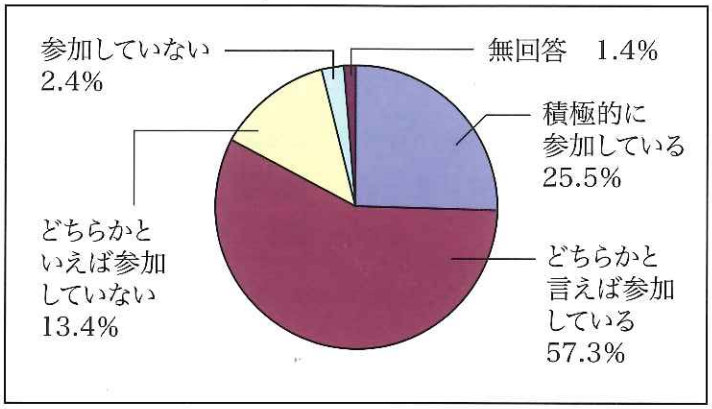
近所付き合い

『積極的に付き合っている』と『ある程度付き合っている』と回答した方を合わせると85.5%となり、大部分の方が近所付き合いを行っていることが分かります。



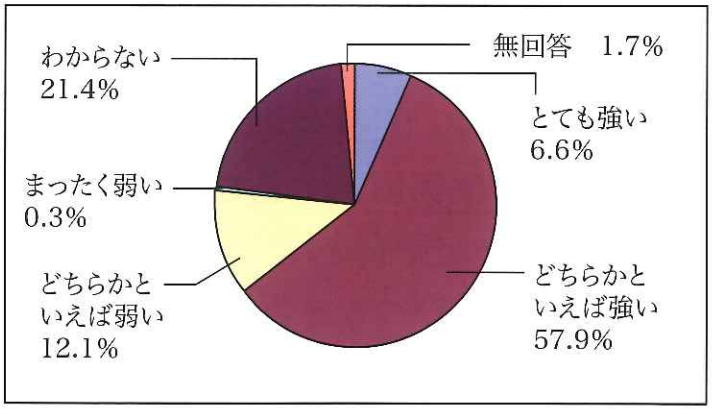
地域行事への参加状況

『積極的に参加している』と『どちらかと言えば参加している』と回答した方を合わせると82.8%になります。近所付き合いの質問と比べると若干割合は減りますが、それでも大部分の方が参加しています。



人と人の結びつきについて

『とても強い』と『どちらかといえば強い』と回答した方を合わせると64.5%になります。近所付き合いや地域行事への参加の質問と比べると、肯定的意見はかなり割合が少なくなっています。



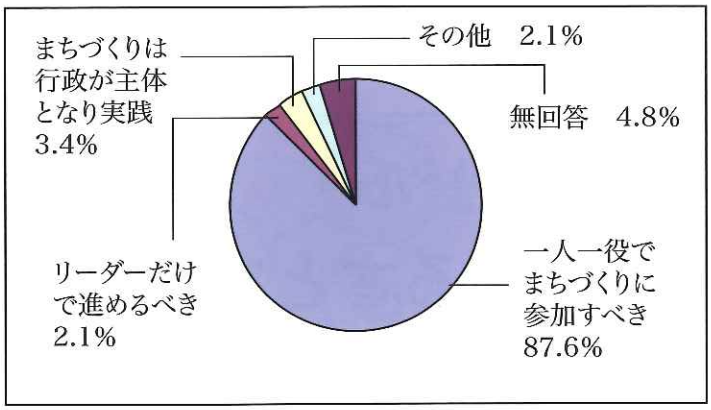
これは否定的な意見が増えた訳ではなく、**『わからない』と回答した方が21.4%**いるためです。

今後4人に1人が高齢者となる麓地区を考えると、**地区の結びつきを今以上に強くし、犯罪や災害に強い地区にする必要があります。**

住民参加のまちづくり

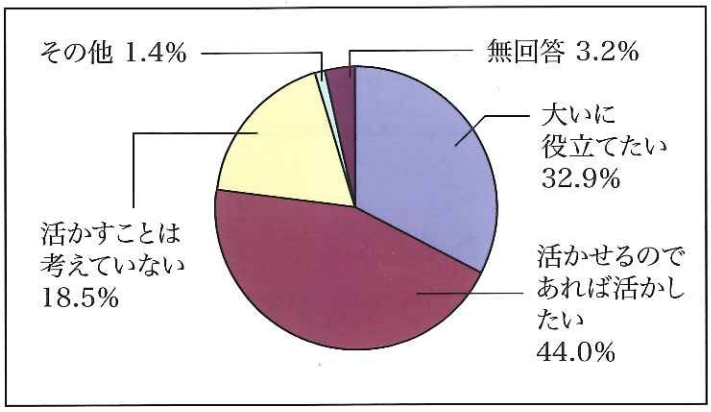
『一人一役でまちづくりに参加すべき』と回答した方が87.6%と一番多くなっています。

まちづくりへの参加意識がかなり高いことが分かります。

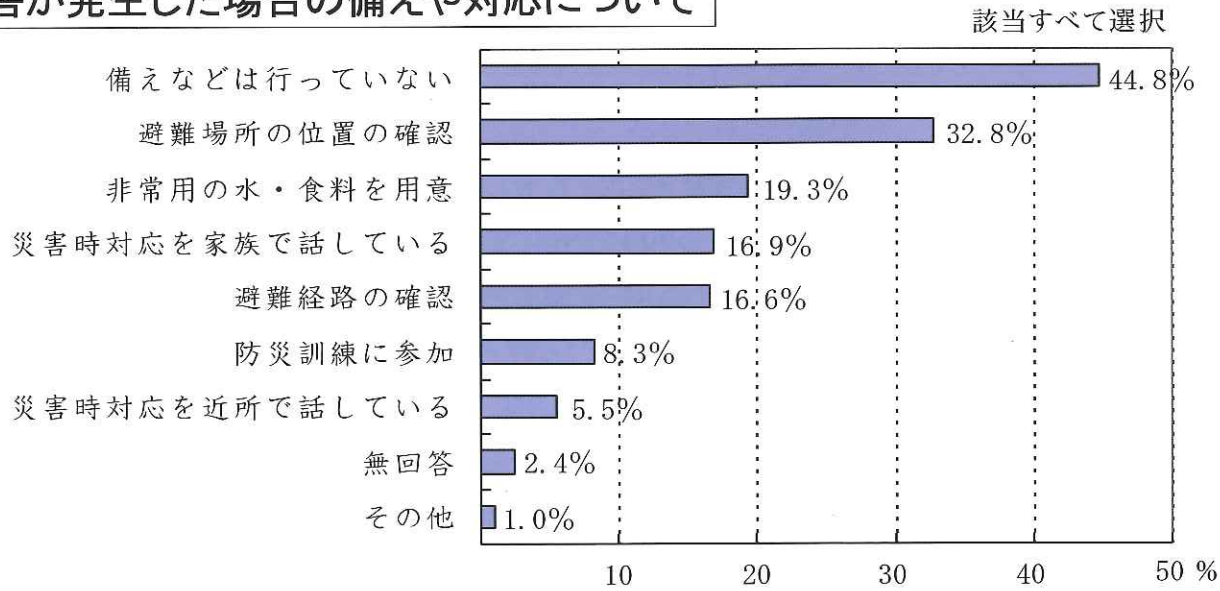


趣味・特技をまちづくり活動に活かすこと

一番多かったのが、**『活かせるのであれば活かしたい』で44.0%、次に『大いに役立てたい』が32.9%**となっており、2つを合わせると76.9%と趣味を活かすことへの高い意識が分かります。



災害が発生した場合の備えや対応について



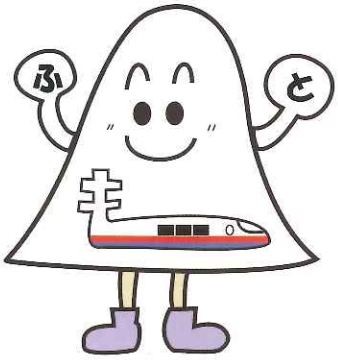
一番多かったのは、**『備えなどは行っていない』が44.8%**となっています。一番対応されている『避難場所の位置の確認』でも32.8%の方のみです。これは麓地区が『自然災害が少ない』ためと考えられますが、災害はいつどこで起こるか分かりません。**災害への備えは必要**です。

5.まちづくりの目的（麓地区の目指す姿）

まちづくりの目的は、

麓地区の人々が、

ふるさとを愛するまち
もっと住み良いまち
ともに助け合うまち



にすることです。

この目的にある『ふるさとを愛するまち もっと住み良いまち ともに助け合うまち』は、**麓地区の目指す姿**になります。

まちづくりは、だれか一人で行えるものではありません。
麓地区に住むみなさんの協力が必要です。
つまり、まちづくりの主役は麓地区に住むみなさんです。

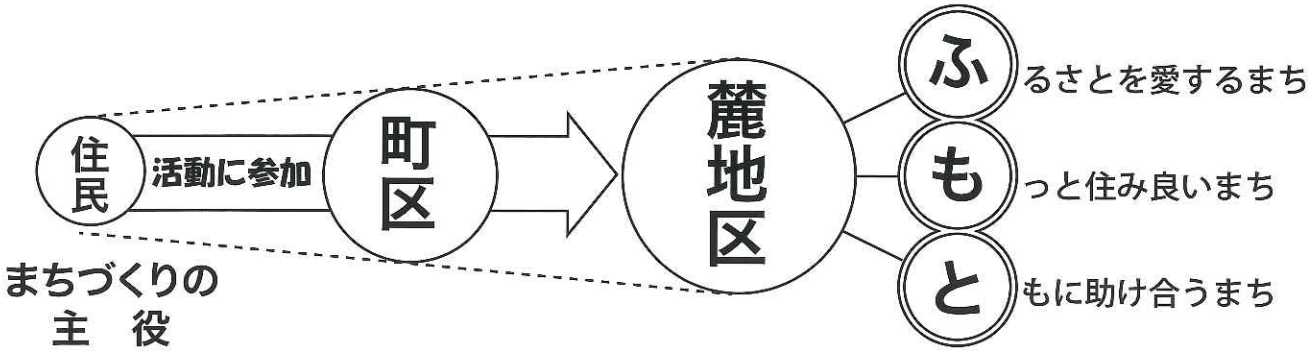
みなさんが出来る範囲で活動に参加する。
まずはご近所から始め、それから町区へ。
町区の活動が活性化すれば、麓地区全体が変わります。

白津　朋佳さん
【作品に込めた思い】
麓の人の印象は「とても元気がいいなぁ」と思いました。その元気を女の子で表現し、麓の町から見える九千部を描きました。アスパラが有名と聞いたので入れてみました。

鶴田　沙也加さん
【作品に込めた思い】
麓のイメージは自然が豊かで、地域の人たちの仲が良いことだと思います。なので、木の下で仲良く手をつないで休んでいるどんぐりちゃんを描きました。

これにより、麓地区が目指す『**ふ・も・と**』を実現します。

【まちづくりのイメージ】



そして、この**麓地区の目指す姿**を実現するため、今後10年間のまちづくりの活動テーマを、それぞれ次のように設定します。

ふるさとを愛するまち

【まちづくりの活動テーマ】

子どもから高齢者まで世代間交流が盛んで、自然豊かな麓地区を愛する心を育みます。

もっと住み良いまち

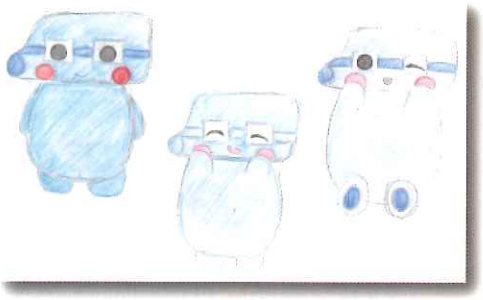
【まちづくりの活動テーマ】

子どもから高齢者までみんなが安全で安心し、自然豊かな麓地区で暮らせる環境を整えます。

ともに助け合うまち

【まちづくりの活動テーマ】

子どもと高齢者をみんなで支え、自然豊かな麓地区でいつまでも暮らせるようにします。



徳渕　彩乃さん
【作品に込めた思い】
新幹線をイメージして描きました。左は「しんくん」で、真ん中が「かんちゃん」で、右が「せんくん」です。新幹線で色々な場所に行って、たくさんの人が笑顔になってくれたらいいなと思いながら描きました。

6. まちづくりの活動の柱

麓地区のまちづくりにおける今後10年間の活動の柱は、

『交流』『防犯・防災』『人材』 です。

この3つの柱は、『麓地区の目指す姿』を実現するための活動の柱です。

【麓地区の目指す姿】 **【活動の柱】**

ふるさとを愛するまち

子どもから高齢者まで世代間交流が盛んで、自然豊かな麓地区を愛する心を育みます。

→ **交　流**

ふれあい畑で麓小学生が地域の方々と芋ほりをする様子。大きな歓声と笑顔につつまれます。

もっと住み良いまち

子どもから高齢者までみんなが安全で安心し、自然豊かな麓地区で暮らせる環境を整えます。

→ **防犯・防災**

見守り隊は佐賀県防犯協会より功労ボランティア団体として表彰されました。

ともに助け合うまち

子どもと高齢者をみんなで支え、自然豊かな麓地区でいつまでも暮らせるようにします。

→ **人　材**

推進センターでは地域の方の知恵と経験を生かした人材ボランティアを募集しています。

麓地区の目指す姿

また、この３本の柱は、『麓地区まちづくり住民アンケート』の麓地区の主な課題の上位３つにも対応しています。

第１位　交通事故の危険性の高まり → **防犯・防災**
広い意味での安全・安心

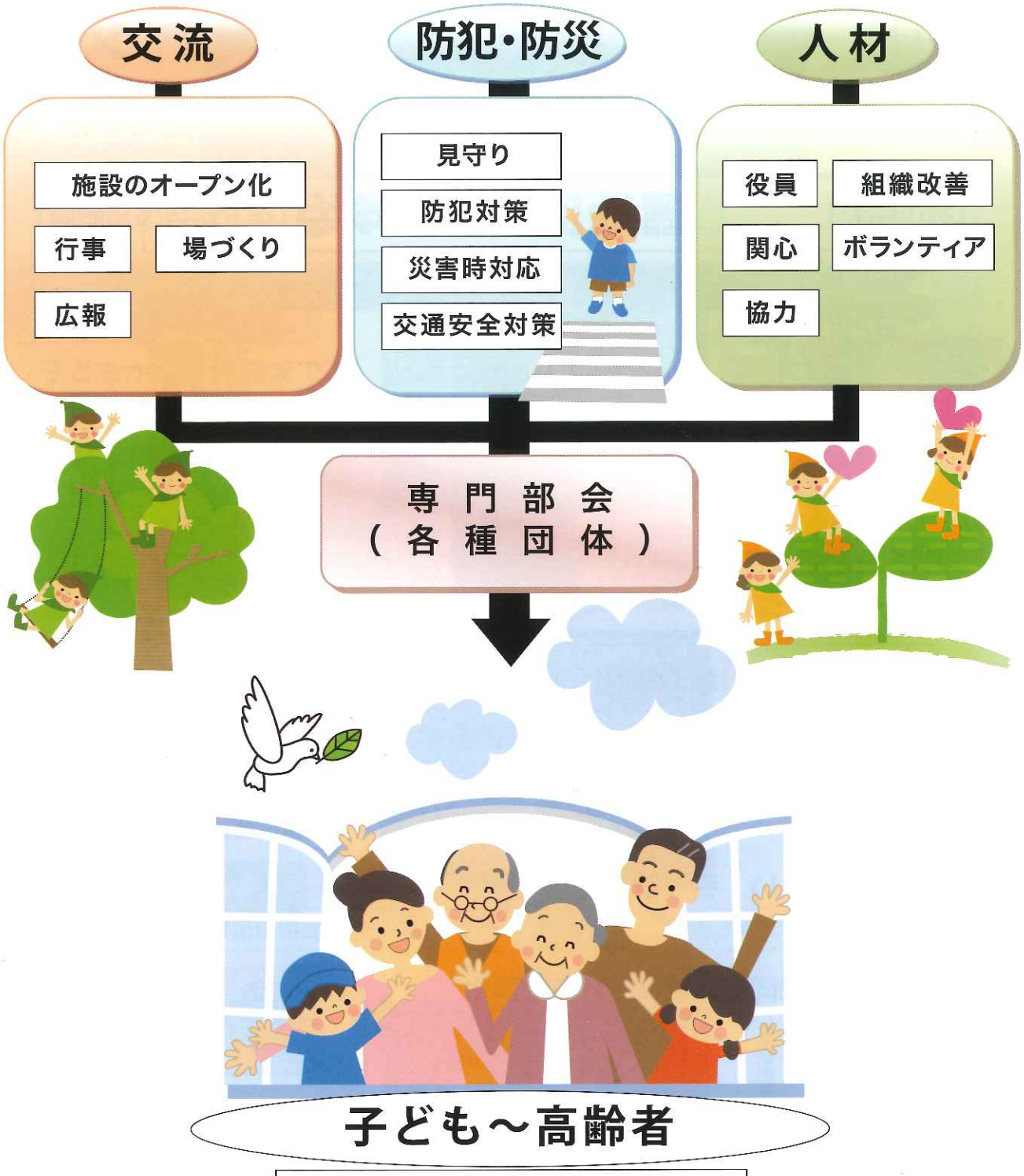
第２位　担　い　手　不　足 → **人　　材**

第３位　住民同士の結びつきの希薄化 → **交　　流**

伊集院　香幸さん
【作品に込めた思い】
麓小の裏にある自然公園のホタルをイメージしました。左側はぎょいこう桜をつけた「ぎょいこーちゃん」。右側は滝壺から御手洗の滝を流す「おちょーずくん」です。

7. まちづくりの事業

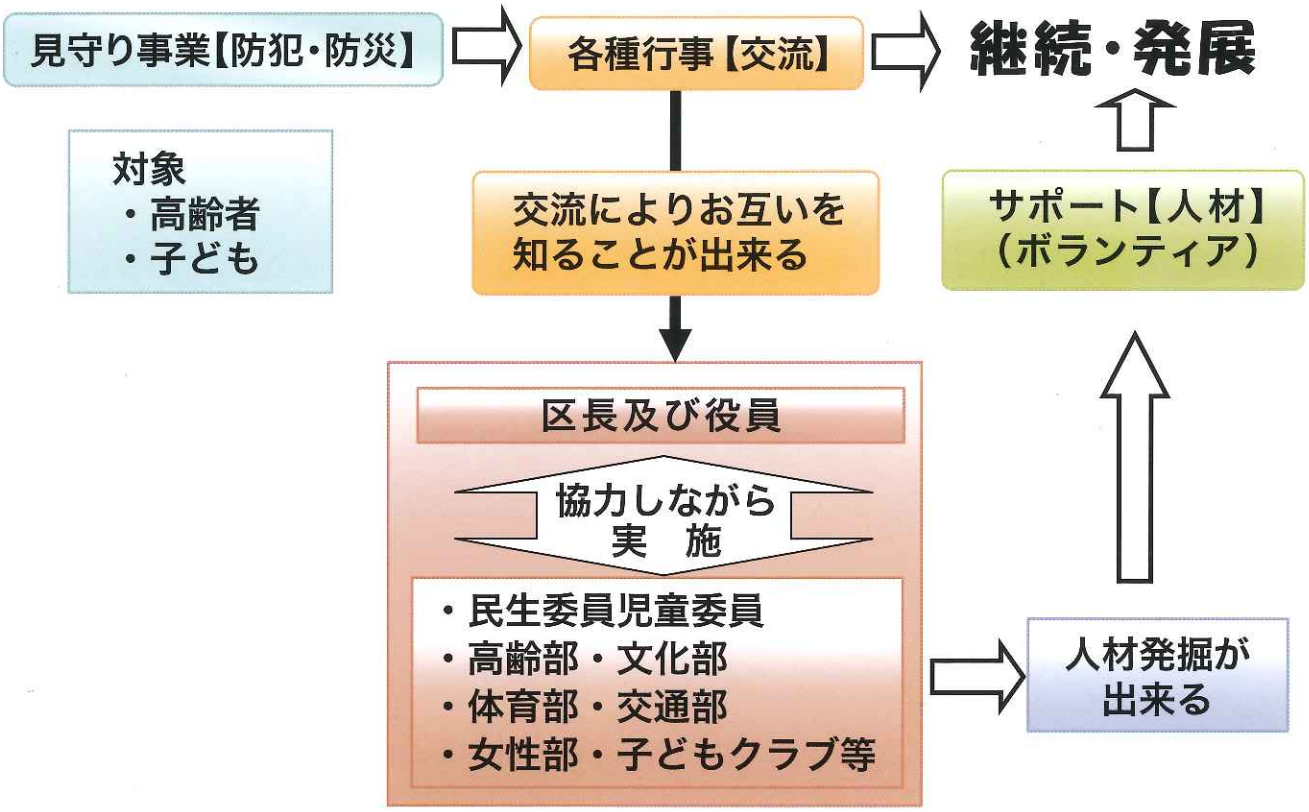
麓地区の今後10年の活動は、3つの柱を中心に行います。



ふるさとを愛するまち
もっと住み良いまち
ともに助け合うまち

また、3つの柱は、それぞれ独立した柱ですが、事業を行う際は、相互に関連付けして行うことにより、効果が高まることが期待できます。

【見守り事業における例】



①交流に関する事業

現在、麓地区が行っている文化祭、盆踊り大会、麓ふれあい祭りなどを継続し、麓地区のみんながより参加しやすく、交流が図れるようにします。

また、これらの事業のノウハウを活かし、町区において実施される交流事業の支援を行い、交流を促進します。

②防犯・防災に関する事業

町区において設立される自主防災組織などの防犯・防災活動を行う団体の活動支援を行います。また、必要に応じ警察や消防などの関係団体との調整を図り、より効率的な活動となるよう支援します。

③人材に関する事業

各種交流事業を通じ、まちづくりに活かせる趣味・特技をもっている人材を募集し、多くの人が参加する地区全体でのまちづくりに取り組みます。

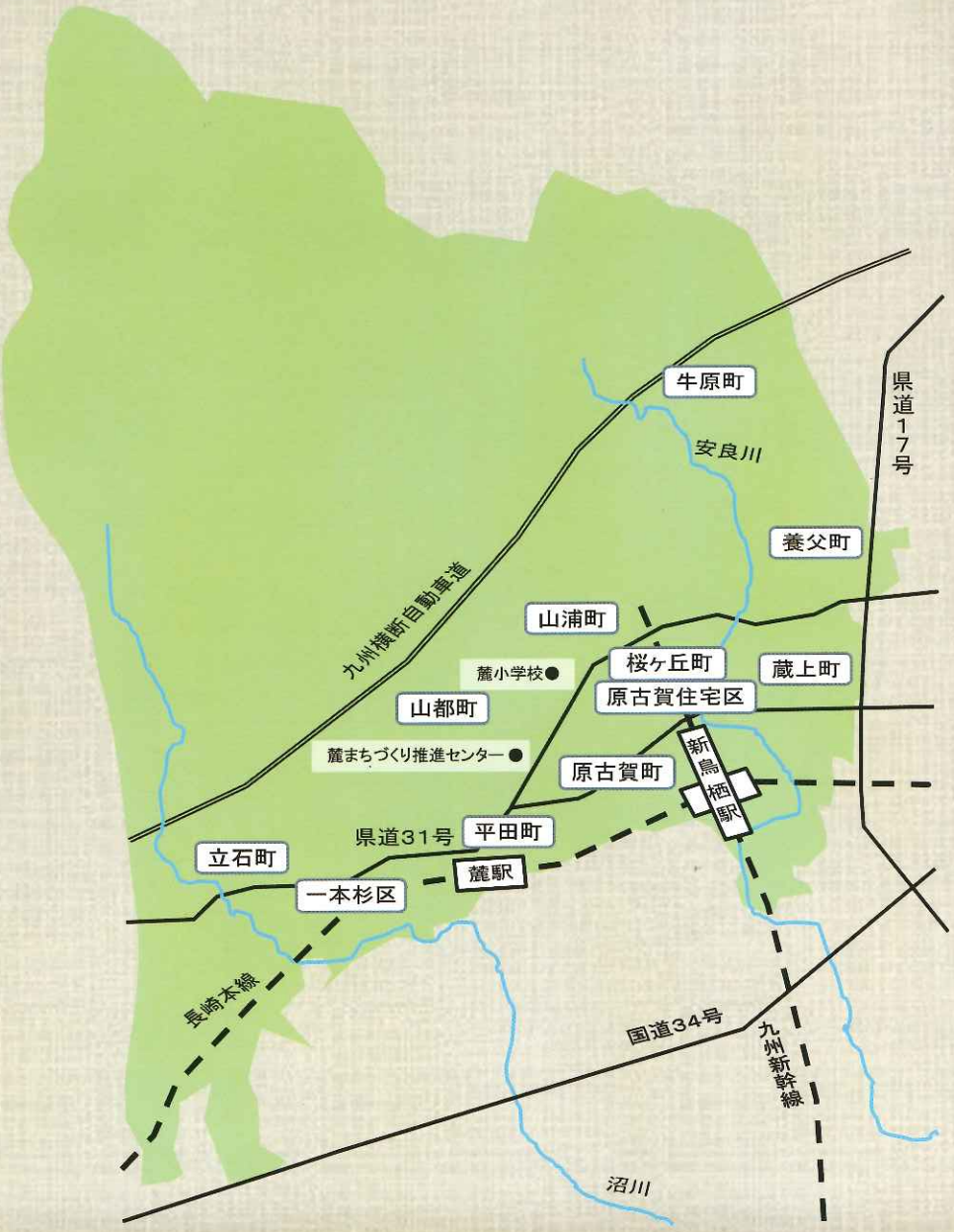


表　紙　絵　多々良　清弘さん（立石町）
歴史著者　牛島　啓爾さん（養父町）
編集・発行　麓地区まちづくり推進協議会
〒841－0084
鳥栖市山浦町1788番地1
麓まちづくり推進センター内
TEL・FAX 0942－82－2080
平成26年3月発行